

コーポレートPPAとは

PPA（Power Purchase Agreement）という言葉は、大規模・中規模発電事業者と需要家（電気利用者）の間で締結する「電力購入契約」という意味があります。PPAにはいくつか種類があり、コーポレートPPAとは、「企業や自治体などの法人が発電事業者から自然エネルギーの電力を長期に（通常10～25年）購入する契約」

※太陽光発電や風力発電のコストが火力発電・原子力発電よりも安くなったことで、コーポレートPPAが活発になってきたという事情があります。

オンサイトPPAとオフサイトPPAの違い

オンサイトPPA：

発電事業者が需要家から建物の屋根などのスペースを借りて発電設備を設置します。そして発電事業者が運用や保守を実施し、現地（オンサイト）で発電した電気を需要家に供給する仕組みです。設置場所に制限があるため、規模は小規模～中規模。

オフサイトPPA：

需要家の敷地外に再生可能エネルギー発電設備を建設します。そして送配電ネットワークを経由して電力を供給する仕組みです。遠隔地など設置場所に制限がないため、規模は中規模～大規模。

事業者と地域行政とのメリット

低コストで導入でき、電気代の節約になる

オンサイトPPAは自然エネルギーの導入により電力コストの節約になり、導入費に対して補助金などの優遇制度の活用も考えられる。

防災効果

蓄電池を導入するもう一つの大きなメリットは、停電など電気供給がストップした場合でも、発電設備が無事であれば平時同様に発電し、電気が使えることです。特に、近年多発している自然災害への備えとしても注目されています。また、産業用においては「BCP(事業継続計画)」対策や非常用電源確保の観点から、蓄電池の導入は一般的になりつつあります。

事業のSDGs活動として公開できる

CO2を削減しSDGs活動を達成、企業価値の向上に寄与。

環境貢献や環境対策を公開できる。

導入のためのQ&A (PPA事業関連①)

【PPA事業関連について】

(Q) PPAとは

(A) 自家消費型太陽光発電は、発電した電気を電力会社に売電するのではなく、発電した電気を自ら消費する仕組みのことで、これにより日中の消費電力を引き下げることができ、月々の電気料金を制御することが期待できます。

自家消費型太陽光発電には「自己設置型」と「PPAモデル」の二種類があります。

PPAとは、Power Purchase Agreementの略で「発電者と電力消費者の間で締結する電力購入契約」のことを指します。

太陽光発電におけるPPAモデルとは「太陽光発電の無償設置」というビジネスモデルのことで、電力を消費するユーザーの敷地や屋根上に、事業者が太陽光発電システム等の分散型電源を設置し、そこで発電した電力をユーザーに販売するモデルです。

ユーザーは使用した電気量の代金のみをお支払いいただきます。

「ソーラーPPA」「第三者モデル」「オンサイト発電サービス」などとも呼ばれます。

(Q) PPAモデルは本当に初期投資がゼロなのでしょうか？

(A) はい、PPAモデルは導入にあたっての費用は不要です。太陽光発電パネルの設置や設備工事などの初期投資に加えて保守管理費用もゼロ契約が可能です。

施設の屋根に太陽光発電設備を無償で設置させていただき代わりに、そこで発電した電力を使用した電気料分のみを支払いいただく仕組みです。

(Q) 導入企業のメリットは？

(A) 世界的に脱炭素社会の流れとなり、自然エネルギー社会が注目されている点があること・年々上がり続ける電気料金と再エネ賦課金が高騰しており、電気代削減や省エネ目的で、自社の工場・店舗・事業所・倉庫・商業施設などの屋根へ太陽光発電を設置する企業が増えていることがあります。

今後は、自社で発電した電気をすべて再生エネルギーで賄う企業が増えてくること予想され、太陽光発電だけでなく、蓄電池をセットで購入するパターンも増えてきます。

特に、自家消費目的で太陽光発電を設置した場合は、税制の優遇お受けすることができます。

弊社のシステムは、創エネ・省エネ・蓄エネを同時に行えるサービスです。

(Q) PPAモデルの場合費用はどれくらいかかりますか？

(A) PPAモデルについては、お客さまの負担は、建物の屋根を共有していただくのみであり、設置する費用の負担はございません。

(Q) PPAモデルの場合、設置後の追加費用はどれくらいかかりますか？

(A) 設備の保有者はPPA事業者のため、お客さまにおかれましては、保険や保守メンテナンス費用も発生しません。

発電システムの維持管理は、電力供給元が行います。

そのため契約期間中のメンテナンスは手間もコストも懸念不要です。

太陽光発電の導入費用は、2021年現在の相場では数百kWの規模では、12万円～14万円/kWと言われており、400kWの太陽光発電を導入する場合は約5000万～6000万です。さらに蓄電池を設置する場合には20万円/kw程度の費用が必要です。維持管理費用も必要です。

PPAモデルを活用すると初期費用は0円・メンテナンス等、ランニングコストも一切かかりません。

(Q) PPAモデルの場合、設置後の追加費用はどれくらいかかりますか？

(A) 追加費用は一切ございません。

最適化制御や定期メンテ等の保守・運用管理業務は、弊社または弊社指定会社が行い、なおかつ申請費用や電力会社の連携負担金などお客さまのご負担も一切ございません。また、発電設備はPPA事業者の所有となるため、設置後のメンテナンス費用もご負担ありません。

創エネモデルPPA（太陽光発電）

省エネモデルPPA（省エネ最適化）

蓄エネモデルPPA（蓄電池最適化）の相互に組み合わせが可能です。

(Q) PPAモデルの場合、ランニングコストはどれだけかかりますか？

(A) イニシャルコスト（初期費用）はゼロ、ランニングコスト（維持費用）は太陽光で発電した電力量、及びまたは、省エネルギーで削減した電力量です。リース契約と異なり固定費が発生せず、支払うコストは発電した電力の分のみです。

※契約期間満了後の設備の取り扱い、所有権に関しては個々の契約内容により異なり、継続して保有する場合には追加の費用が発生する場合があります。

導入のためのQ&A (PPA事業関連②)

【PPA事業関連について】

(Q) どのような場所に設置できますか？

(A) 「屋根・屋上などに合計500㎡以上の日照スペースがある」かつ「目安としてデマンド契約が**300kw**での契約」等を効果の目安としております。
弊社では無料で太陽光発電設備の設置が可能かどうかお調べいたしますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

(Q) 導入にあたり業務への支障はありますか？

(A) 工事関連で、工事作業場所の確保、工事騒音、一時的な停電が必要です。

(Q) 申込の流れを教えてください。

(A) 現在の電気料金などのヒアリングを行い以下を実施します。
・現地調査（無料）、シミュレーションの実施。
・ご提案（御見積り）
・ご契約
・設置工事
・メーター工事
・試運転調整
・運転開始

(Q) 設置から運用開始までどのくらいかかりますか？

(A) おおよそ1年前後の期間を想定しております。
各種手続き、及び施工条件によって変更がある場合があります。

(Q) 停電が増えるなどのリスクやデメリットはありませんか？

(A) 太陽光発電システムのトラブルで太陽光発電の電気が供給できなくなったとしても、電力会社の大小問わず「供給能力確保義務」という法律があります。大手電力会社が設置している送電線を使用し、瞬時に切り替え電力を供給いたしますので、太陽光発電の導入により停電が多発したり電力が不安定になることはございません。ご安心ください。
※施工の際にキュービクル改造工事を行うため一時的な停電をお願いすることはございます。

(Q) 曇天や雨天でも発電しますか？

(A) 曇天の場合で晴天時の50%以下、雨天時で10%以下とされています。
弊社では、気象状況を予測により蓄電池と省エネルギーの最適化を行い、できるだけ効率的な運用に配慮しています。

(Q) 塩害地域でも設置できますか？

(A) はい。塩害地域でも設置可能です。
塩害対策が必要な地域には専用のパネルや架台をご用意いたします。

(Q) 雨漏りの心配はありますか？

(A) 屋根材の形状によっては、太陽光パネルを設置する際に屋根に架台を固定するためにボルト穴を開ける必要があります。
施工情報を共有し、最適な導入方法をご提案します。

(Q) 電気料金の単価はどのようになりますか？

(A) PPA事業側の設備投資コストとお客さまとの供給契約により単価は変動します。
一般的に長期契約になればなるほど供給単価は安価となります。
契約により異なりますが、最低5年～30年が目安となります。
PPAは、長期で契約いただくことで供給単価が安価となる仕組みです。
そのため、短期でのご契約は難しい場合がございますがご了承ください。

(Q) PPAモデルの場合、撤去費用はかかりますか？

(A) 契約年数を満期を迎えた場合は無償撤去可能です。

(Q) PPAモデルの途中解約はできますか？

(A) 契約期間や途中解約に一定の制限を設ける可能性があります。